

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
平成 29 年度 契約監視委員会（第 3 回）議事概要（案）

1. 日 時 平成 29 年 10 月 31 日（火） 14：00～16：00
2. 場 所 クイーンズタワー B 棟 7 階 D 会議室（神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-3）
3. 出席者  
委員長 細井 和昭 公認会計士  
委 員 蒲池 孝一 公認会計士  
委 員 苑田 浩之 弁護士  
委 員 前 章裕 （研）水産研究・教育機構 監事  
委 員 榎本 一高 （研）水産研究・教育機構 監事  
（研）水産研究・教育機構事務局  
※林委員は欠席
4. 議題 ①平成 29 年度第 1 四半期の契約実績及び入札等に関するアンケート調査結果  
②契約事務取扱規程における随意契約条項の追加について  
③平成 29 年度第 1 四半期の契約の抽出案件  
④その他

5. 議事概要

- ・ 議題①平成 29 年度第 1 四半期の契約実績及び入札等に関するアンケート調査結果  
契約実績、競争性のない随意契約及び一者応札・応募の類型別内訳、類型別の平均応札者数及び平均落札率、アンケート調査結果を踏まえた入札改善策などについて資料に基づき説明があった。  
○アンケート調査の結果で、メール配布になり便利になった。との意見があるが、電子データによる関係書類の提出も可能なのか。  
→入札説明書等の電子データによる配布は行っているが、提出書類は原則、紙ベースで提出をお願いしている。
- ・ 課題②契約事務取扱規程における随意契約条項の追加について  
公共の用に供するために必要な財産を、機構が直接公的機関に売却することが可能となるよう随意契約条項を追加する旨説明があり、質疑はなく議題②は承認された。
- ・ 議題③平成 29 年度第 1 四半期の契約の抽出案件  
抽出審議案件の契約の内容について説明があり、それぞれ審議を行った。

「議題③平成 29 年度第 1 四半期の契約の抽出案件」について、抽出審議案件 12 件にかかる主な質疑応答は以下のとおり

(競争性のない随意契約)

**【随契2】 本部事務所清掃業務（本部契約課）**

○事務所賃貸借に係る館内使用規則に指定されている業者以外の業者と競争することについて、交渉の余地はないのか。入居する他のテナントで例外的に他社と契約している実績はないのか。

→館内使用規則の遵守は、当ビル入居時の契約事項であり、指定業者以外の業者と競争させるための交渉の余地はない。入居する他のテナントについても、指定業者以外の業者との契約の実績はないと聞いている。

(競争性のない随意契約)

**【随契15】 オホーツク海東部における鯨類の目視による科学調査業務（国際水産資源研究所）**

○日本・ロシア二国間での協議に基づいた契約であるとのことだが、過去他機関と契約締結した実績はあるのか。

→過去2年間契約しているが、2年とも相手方は連邦国家予算学術機関太平洋漁業科学研究センターであり、他機関との契約実績はない。

(競争性のない随意契約)

**【随契30】 CATSAT（漁業支援衛星システム）データ情報提供業務（開発調査センター）**

**【随契31】 アルゴスシステム利用に関する情報提供業務（国際水産資源研究所）**

**【随契32】 アルゴスシステム利用に関する情報提供業務（西海区水産研究所）**

○契約内容は少し異なっているが、同時期に3つの研究所等が同一者との契約を行っている。それぞれの研究所等ごとに個々に対応しているのか、それとも他の研究所等と意見交換しながら効率的な対応を行っていたのか。またその場合、本部で一括契約を行う事は考えなかったのか。なお価格交渉は行えないのか。それぞれ意見をお聞きしたい。

→本件は、個々の研究所の利用者ニーズに合わせて研究所ごとに対応している。アルゴスシステムの利用料金は、政府機関や非営利組織ユーザ（JGU=Japanese Governmental Users）の会合により決定されているため価格交渉の余地はない。そのため、一括調達も考えていなかった。しかし、委員ご指摘のとおり、個々の研究所で契約事務を行うのは非効率であり、本部における一括調達の検討をしたい。

なお、CATSAT データ情報の提供については、アルゴスシステム利用と、業務の内容が異なるため、一括調達は困難と考えている。

(2か年連続一者応札)

**【88】（試薬）NextSeq500 High Output v2 kit 外9点（中央水産研究所）**

○過去の契約実績により「どうせ勝てない」との考えから応札者が1者であると推察できるが、引き続き他者への声かけはお願いしたい。ところでこれら試薬には取り扱う代理店は他にないのか。同等の試薬も存在しないか。

→初期2回は他にも2者応札者があったが、それ以降は1者応札が続いている。当該試薬を取り扱う代理店は他にも存在しており、引き続き他社への声かけを行うなど、一者応札の改善に努めたい。なお、当該試薬は保有する超高速高精度ゲノム配列決定システムで用いるもので、同等品可として入札しているが、メーカー推薦試薬以外を使用した場合、結果に対する保証が得られないと聞いている。

○次回の機器更新の際には、関連消耗品の調達を含めた契約を行う等、将来の一者応札の削減のための対策を考えてほしい。

#### (複数応札)

##### 【49】 オールインワン蛍光顕微鏡 (増養殖研究所)

○落札率の高さを考慮すると予価の立て方も含め、特段特殊な製品とも思えないものを業者言い値で購入しているようにも見えるが、当該製品は一般的なものではないのか。どこかで仕様が厳しくなっているのではないか。

→通常蛍光顕微鏡は暗室で使用するものだが、本製品は、暗室を必要とせず明環境で作業ができるのが特徴で、同様の製品は他メーカーにも存在するが、非常に高額であり比較対象とすることは難しい。また仕様は、病原体の観察という研究用途を考慮すると、緩和するのは難しい。

#### (一者応札)

##### 【123】 水産大学校所属漁業練習船 耕洋丸 定期検査及び一般修繕 (本部船舶管理課)

○一者応札の改善方策として、年度当初にドック予定期間を公表するとあるが、予定期間の公表だけではなく、入札スケジュールも含めて公開してはどうか。落札業者以外からの意見は入手しているか。

→委員ご指摘のとおり、ドック予定期間と入札時期を含めて公開したい。本件は、例年複数応札が続いており、今年度は他の業者のドックが塞がっていたため、たまたま一者応札となってしまったものである。引き続き、ドック予定情報の早期の公表やドック業者への声かけを続けて参りたい。

#### (一者応札)

##### 【127】 自然浄化法リアクターシステム保守管理業務 (北海道区水産研究所)

○過去の落札業者はどこか。契約地域を分散しても対応不可なのか。

→過去の落札業者も同一業者である。他の業者に契約地域を分散することで応札可能かを聞き取ったが、対応不可との回答であった。

○対応可能な業者の開拓は可能か。

→本件は落札業者が特許を持っていたが、特許の絡む事項がなくなったので、今後は新規参入等で応札者の開拓は可能と考える。

(複数応札)

**【155】改良型ノルパックネットサンプル分析業務外8件（瀬戸内海区水産研究所）**

○参考とした見積額で業者毎に価格の開きが大きいのはなぜか。また過去実績については、今回の落札者と同一業者となっているのか。新規の応札者確保のため、今後9件の分析業務を仕様毎に細分化して、契約することは可能か。

→業者毎の見積額については、分析項目の得手不得手、実施時期の繁閑等が価格の開きの理由と推測している。過去落札者は今回と同一業者である。仕様書は9枚に分かれているが分析内容は同じであり、纏めることにより価格が下がることも考慮すると、現状の契約方式が合理的と判断している。

(2か年連続一者応募)

**【171】平成29年度海洋水産資源開発事業（定置網：高知県鈴地区）に係る「設置型魚群探知機調査で得られるデータを用いた魚群の定量化及び小型船舶を用いた計量魚群探知機調査による魚群来遊量把握」に関する委託事業（開発調査センター）**

○業務内容を見ると実施場所が高知県なのに、応募者は北海道の業者となっている。近隣に応募できる者はいなかったのか。公募に対し周辺地域での声かけはどうなっているのか。

→広く情報収集を行ったが、本業務における魚探画像解析に関する専門的な知見、実績を有している者は、近隣にはいなかった。

(一者応札)

**【179】宮城県の新たな殻付き生カキの試食会開催等PR業務（東北区水産研究所）**

○本業務は宮城県での開催であるが、地元からの応札はなかったのか。

→落札者はオイスターバーを経営する飲食事業会社の系列会社である。入札説明書受領者には地元企業もいたが、ウイルス検査等を含めた安全対策にリスクを感じ辞退となった。

・議題④その他

今回の委員会は平成29年度第2・第3四半期の契約が審議対象になり、開催日は2月以降を予定していること、12月中に事務局から各委員へ日程調整の連絡を予定していること、それに先立ち、今回の審議案件の抽出を林委員に依頼する旨、事務局から連絡があった。